

令和4年2月21日(月)

教育実践力向上CBTの 教職課程での活用状況について

北海道教育大学旭川校 学校臨床准教授 山中 謙司

教育実践力向上CBT[※]について

※「教育実習前CBT」から改称

教育実践力向上CBT

Computer Based **Testing** & **Training**

教師としての資質や指導力を培うため、
学校現場で起こりうる実践場面を
題材とした問題に段階的に
取り組むプログラムを
全国で初めて開発



効果

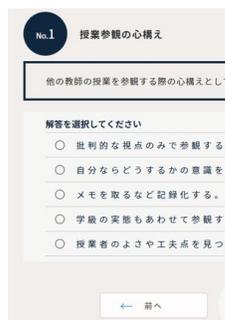
経験主義を超えた
普遍的・基本的
指導方法の習得

「教師になる」
そのために学ぶ
強い
動機付け

＜豊かな教育実習の経験へ＞

教職に関する基本的な法令や
指導方法等の知識を
確かなものとし、教育実習への
意欲と自信を高める

教職の難しさの実感 → 教員志望の低下
教師と子供との相互作用による営みは、
不確実・不確定・複雑で動的であり、
臨機応変に対応する必要がある



コンピュータ上で各項目内で
ランダムに出題される50問のうち、
7割の正解で合格
不合格の場合は
後日再度受検

＜本質的な諸相を考えながら、より適切な選択に基づく実践へ＞

個別最適な学びと
協働的な学びの実現

Training3 (協働)

教育実習の省察
協働的な学びによる
本質的な諸相への気付きと
実践の選択肢の拡大
**自己の強みやよさの
見つけ直し**

Testing (教育実習の履修要件)



Training4 (個別)

フィールド研究を通して
新たな実践の試行

Training2 (個別)

教育実習までに検定で
明らかになった苦手な
内容について学び直し

Training1 (個別)

ガイダンスを契機として、
基礎実習を含めた
これまでの学びを
問題集を基にチェック

※旭川校では教育実習前に実施

教育実践力向上CBTについて

教育実践力向上CBT 問題群

教職に必要な素養等
に主として関するもの

学習指導等 に主として関するもの

生徒指導等 に主として関するもの

特別な配慮や支援を必要とする子供への対応
に主として関するもの

ICTや情報・教育データの利活用等
に主として関するもの

教師に求められる資質能力の再整理
大きくり化した資質能力の観点(試案イメージ)

1. 教師論
2. 学級経営
3. 学習指導
4. 特別支援教育
5. 生徒指導
6. 危機管理
7. 学習指導要領
教育課程
8. 法規

問題作成者は、
校長、教頭、教育委員会指導主事、
国立教育政策研究所学力調査官経験者。

「学校臨床研究」でCBT問題を扱い、
学生の考えを引き出しながら、解説をする。

「基礎編」～教育実習前に取り組む問題。検定に合格することが、
教育実習の履修要件。約210問。解説付。

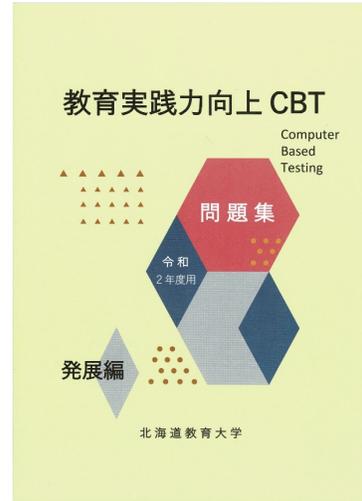
「応用編」～教育実習後に取り組む問題。教育実習からの学びを
さらに深め、教員採用試験等の対策にも。約460問。

「発展編」～より実践的な問題。採用前、あるいは初任段階で取
り組むことで、現場での実践力向上を図る。約380問。



基礎編と応用編の合本。
2年生後期に
全学生に配付。
総141ページ。

発展編。
応用編を終えた
学生のうち希望者に配付。
教職に就いた初任者の
研修にも活用。
総68ページ。



【北海道教育大学】本学が開発したCBTによる在宅学習支援と教員研修への活用

コロナ禍の中、教育実習前CBTを在宅学習に活用することとし、本学
学生はもちろんのこと、全国28大学(国立5・公立3・私立20)から利用申込
みがあり、約1700人が在宅学習に活用した。学生アンケートでは、「詳
しく対処法の意図が解説されており理解が深まった」「イレギュラーな
ことが実際に起こっても対処していける」との声があった。
また、教員として身に付けておくべき実践方法をまとめた『教育実践
力向上CBT(発展編)』が、北海道教育委員会及び札幌市教育委員会
の初任段階研修において活用された。初任教員アンケートでは、91.2%が
現場における実践にあたり具体的なイメージを広げることができたと回
答があった。さらに「基本に立ち返り自身を振り返る上で役立った」
「様々なケースを学ぶことで指導の幅が広がり、現場での判断や対応に
役立つと感じた」との声があった。
今後は、これらのCBTを活用し、より効果的に学習するためのラーニン
グ機能を追加するなど、さらなる改善・充実を図っていく。

教育実習前CBTの問題と解説例	
<p>【学習指導 授業計画】 No.11 個人差への対応</p> <p>ア 数や割合が異なる問題を扱った場合、異なる観点から行方、 イ 自分の考えをリードしながら説明できるようにする。 ウ 自分から説明する機会を多く取り、発言を促す。 エ 問題でわからないことは、その子が持っている知識を整理す ることから整理し始めること、整理できたら、問題がわかる。</p> <p>【正解】ウ</p> <p>【解説】数や割合が異なる問題は、異なる観点から行方、イ、 ウ、エの考えをリードしながら説明できるようにする。また、 説明を促すだけでなく、必ずしも自分から説明する機会が多 く、ア、ウ、エの考えを整理して説明できるようにする。ま た、反復練習をさせるなど、プレッシャーをかけるだけで は、効果が期待できない。</p>	<p><その他の問題例></p> <p>【基礎編】 授業計画の構成/構成における優先順位 【発展編】 授業計画の構成/構成における優先順位 【基礎編】 授業計画の構成/構成における優先順位 【発展編】 授業計画の構成/構成における優先順位 【基礎編】 授業計画の構成/構成における優先順位 【発展編】 授業計画の構成/構成における優先順位</p>

2019年
文部科学省から
「グッドプラクティス」認定

学校臨床研究における「教育実践力向上CBT」の活用について

学校臨床研究

3年生を対象に、附属学校・拠点校・小規模校での授業を視聴し、授業者とのオンラインによる交流等を通して、授業実践上の課題や新たに見つけた課題の解決を目指した授業研究や省察活動を行い、学級経営力・授業分析力・授業運営力等、実践に必要な知見の更なる修得及び能力の一層の伸長を図る

学校現場とのオンラインでの交流



実際の授業を大学で視聴



授業者と質疑応答

再現教室やラーニングコモンズを利用した講義時間以外の
学生主体の模擬授業づくりで実践



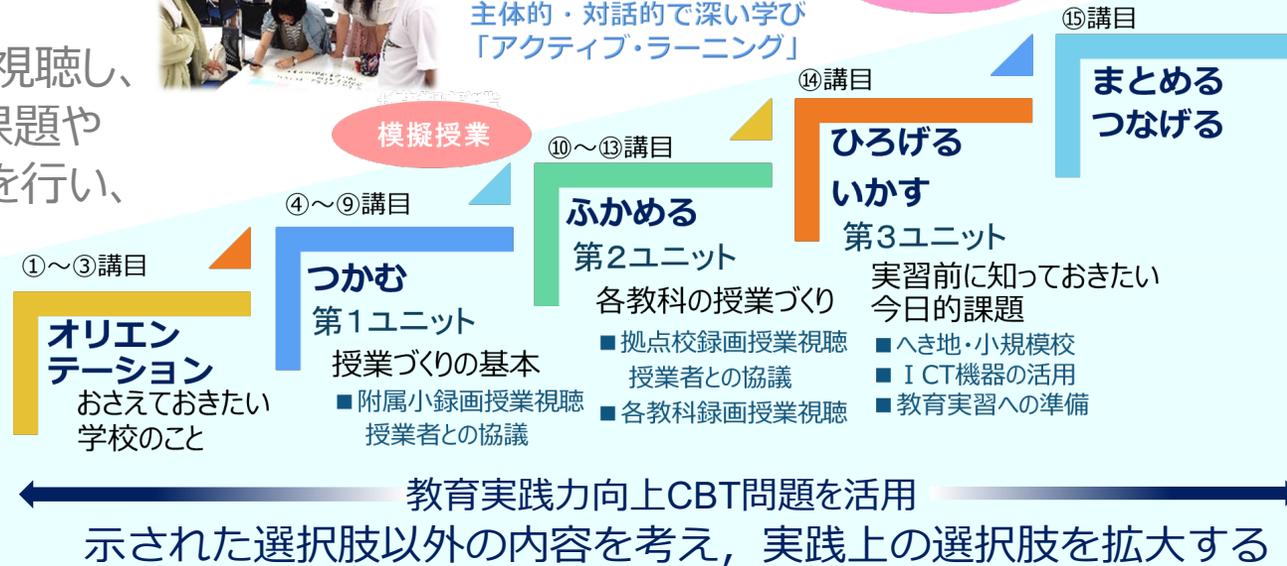
問題の本質を見極め、より適切な選択に基づく実践を可能とする力の育成



少人数による
主体的・対話的で深い学び
「アクティブ・ラーニング」

教育実習 I

教職実践研究



個人思考
できるだけ多くの内容を考え、数を確保する

グループワーク
話し合いを通して、質の向上を図る

全体発表
実践上の選択肢を増やす

机間指導として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア 一人一人の児童生徒の様子を把握し、座席表等に記録しておく。
- イ 机間指導で見る視点を明確にしておき、その視点に沿って児童生徒の様子を観察する。
- ウ つまづいている児童生徒に個別指導を行う。
- エ 児童生徒が個別に取り組む時間なので、教師は次の授業の準備を行う。
- オ 机間指導で見られた共通のつまづきを、全体指導に生かしていく。

<解説> 答え：エ

机間指導では、一人一人の学習状況を把握し、次の全体指導に生かすという面と、つまづいている児童生徒に対して個別指導を行うという面がある。教師にとっては授業を効果的・効率的に進め、一人一人の学習効果を上げるために重要な指導技術である。

学校臨床研究における「教育実践力向上CBT」の活用について

3 学習指導・授業改善(全員参加)

発問に対して一部の児童生徒しか反応しないときの対応として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア. 全員が挙手するまでいつまでも待つ。
- イ. ノートに予想を書かせ、机間指導した際に認めるなどして自信を持たせる。
- ウ. 黒板にネームカードを貼らせて、立場を明確にする。
- エ. 選択肢を示してどれかに挙手させる。
- オ. 隣の子との話し合いを行わせて、自信を持たせてから挙手を促す。

他には…

- 既習の内容を確認する。
- 考えを表出しやすい幅のある問いかけにする。
- 子供の考えと異なる考えを提示する。

その行為の裏にある意図は…

- 誰一人取り残さない学びの実現

子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割



教員になる上での
課題の自覚

理論科目・教科指導法等、
他の学修への
主体的・能動的な学びへ

ふさわしくない対応の選択

根拠の確認

自分の見聞きした経験を超えて
多様な方法があることを認識する

選択肢に示されるふさわしい対応の確認

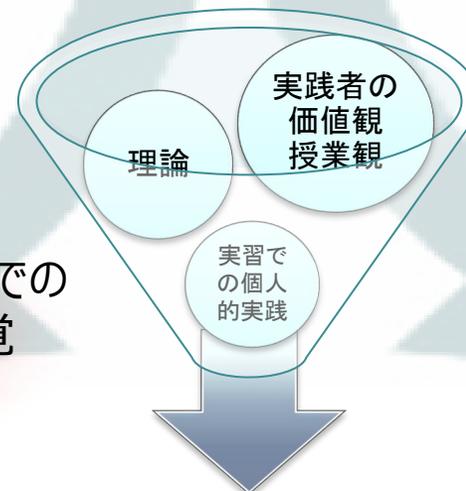
実習時の対応の想起

対応の理由・子供の反応

妥当性の検討(協議)

自分ならばどのように具体的に
行動するかをイメージする

無意識の対応 → 行為の価値の自覚



対応(行為)の
選択の拡大

本質的な諸相への気づき
普遍的な実践理論化

フィールド研究を通して
新たな実践の試行へ

自分でアレンジできるか
他の方法はあるか

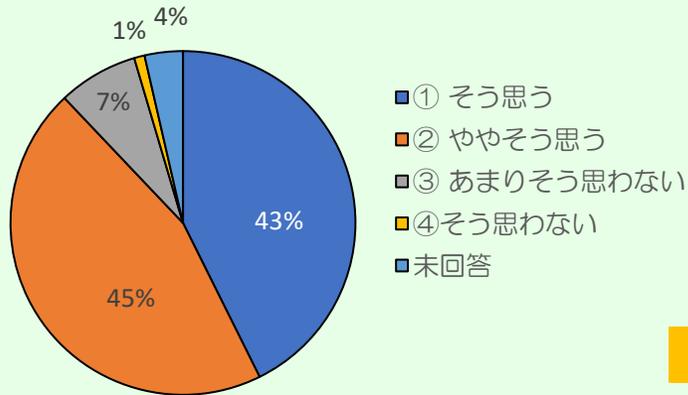
教育実践力向上CBTと授業との連携による教師の資質能力や実践指導力の形成事例

教育実践力向上CBTで教師としての基礎的な資質能力や指導力の形成

教育実践力向上CBTを受検後の学生の意見

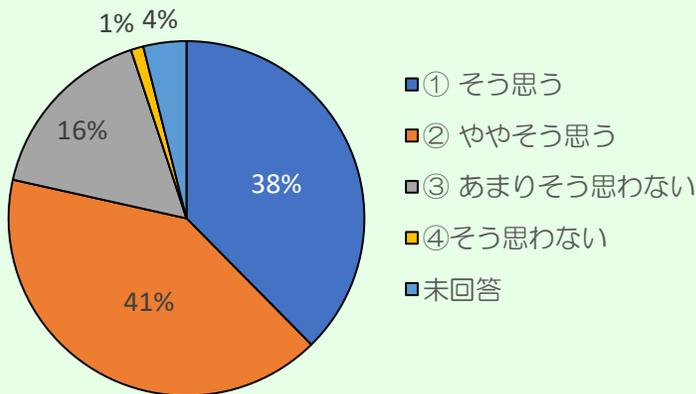
教育実習への心構え

教育実習前CBTに取り組むことにより、教育実習への心構えができたと思いますか。



知識や考え方の獲得

教育実習前CBTに取り組むことにより、学校現場での指導をイメージしたり、指導上求められる基礎的な知識や考え方を確かなものにしたと思いますか。



令和2年度「CBTアンケート」 n=622 回答率73.8%

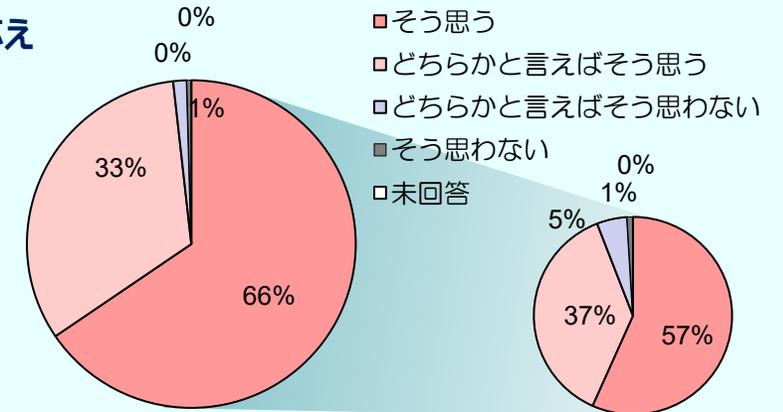


学校現場を活用した授業科目「学校臨床研究」で教師としての実践力を形成

授業科目「学校臨床研究」後の学生の意見

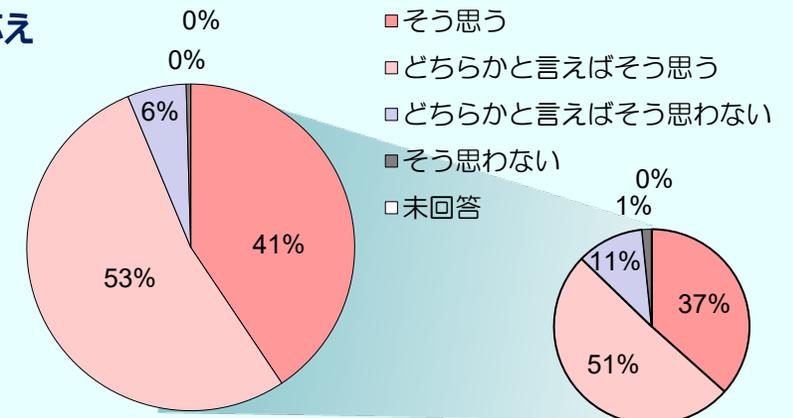
課題設定力向上の手応え

教育実習等で自覚した自分の課題を明確にすることができたと思いますか。



課題解決力向上の手応え

課題解決のために必要な情報を収集及び整理・分析することができたと思いますか。



令和2年度「学校臨床研究に関するアンケート」 n=720 回答率95.7% 平成30年度 n=628 回答率91.3%

教育実践力向上CBTと授業との連携による教師の資質能力や実践指導力の形成事例

学生による学校臨床研究に対する評価（自由記述より）

- 教育実習で感じた自分の課題について深く追究することができ、とても実りのある時間を過ごすことができた
- 身に付けて実践して改良するという考えをもって実習を行うことができた
- 発表形式を学び、実習中に授業で生かすことができた

教育現場における課題解決に必要な能力の獲得について実感

- 同じ課題意識をもつ仲間と共に追究することで一人で考えるよりもいろんな角度から見ることができ、自分の視野が広がったように感じる
- 自分の課題に対して、一人で向き合うには時間も知識も足りないと思っていたけど、同じ課題で仲間と一緒に深く考えることができました

自ら見いだした教育実践上の課題について、他者との対話を通して多面的な視点から考えを深めることに手応え

複雑で不確実な要素を多様に含む学校現場で、どのように判断や対応することが求められるのかを一人で悩み考えるのではなく、協働的に解決を図るといった現場における教師に求められる資質を身に付けることにつながったと考えられる。



第1ユニット
選択肢以外の対応の
妥当性を協議

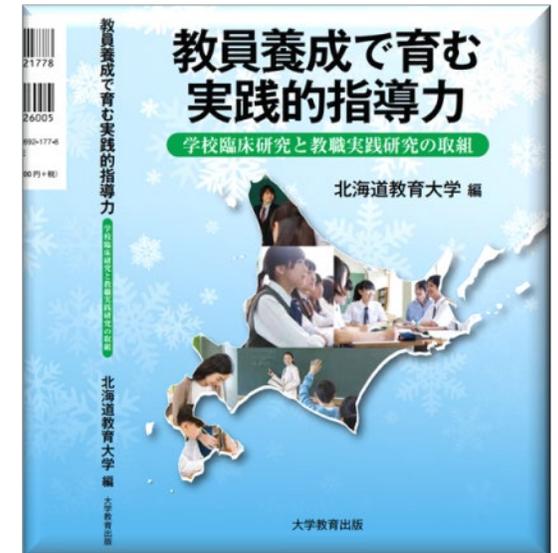
7. 自由記述（上記1から6の理由や次年度に向けての意見・提案、受講して感じたこと等がありましたら自由に記載してください。）

今年度から教育実習前にこの講義が開かれたことで、教育実習を前にして「自分だったらどのような展開をするかな」または、「このときに自分が気をつけるべきことは何か」ということを考えることができた。このことが、教育実習にあたって授業をつくる上で大いに役立った。そして実践を通じて、「これが実践できた/できなかった。自分はこのような課題があるのか」といったような発見をすることができた。これはこの講義で前もって、授業の中で工夫すべきことを考察して実践することができたため、できたこととして考える。

学校臨床研究の詳細は
2022年2月発行の
書籍に記載



第2ユニット
普遍的な実践理論としてのまとめ



教育実践力向上CBTと授業との連携による教師の資質能力や実践指導力の形成事例

学生による教育実践力向上CBTに対する評価

- 授業の経験が少ないので学校現場イメージがわからず不安でいっぱいでした。ですが、CBT問題を活用することで必要な知識を手に入れることができ繰り返し問題を解いたり解説を読むことで少しずつですが自信に変わっています。CBT問題は**教育実習に向けた準備や気持ちに直結するもの**だったと思いました。
- 法規は**CBTがなかったら勉強しなかった**と思うので助かった。

- 学習指導や教職論については講義で多く学習してきたが、危機管理についての学習機会が少なかったため、**児童生徒の健康についてや災害時の対応についての問題でイメージが高まった。**
- 学級経営の問題で言葉遣いに関する指導や生徒の対応に関する問題が出題されており、実際に学校現場で実習をしているときにも**どんな対応をするべきか**ということがより明確になった。
- 学習指導・授業改善の問題で授業中の指導だけでなく、授業を計画する上で何を意識して授業を展開するかを問う問題が出題されており、**教科の教授法だけでなく、指導上の注意点をより学ぶことができた。**

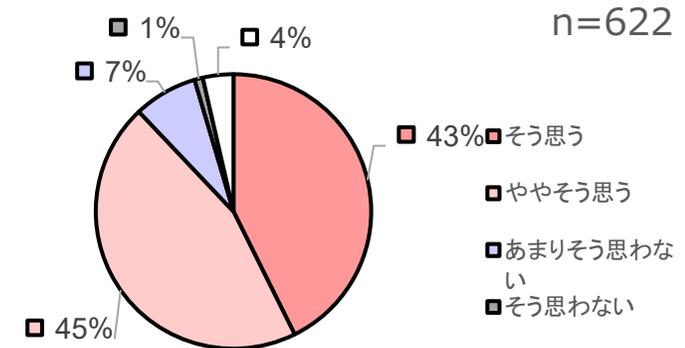
- CBTを通してイメージをもち、教師のあり方や子供との関わり方について考えを深めることができた。実際に子どもたちを目の前にした時に、**柔軟に対応する力を身につけたい。**
- CBTを通して、生徒との実際のかかわり方や、教員としての心構えについて、改めて学び直す機会となった、CBTで問われていたこととしては「生徒1人1人の意見を尊重すること」や「教員としてふさわしい行動」等、当たり前のことでも多かったが、**教員として「当たり前」に求められていることを改めて確認できる貴重な機会であった**と感じている。CBTを通して、**教員として求められることや、心構えについて学び直すことができた。**教育実習までには、生徒の実態や、教科指導で求められること等について、より学びを深めておきたいと感じた。

実習に必要な学びへの動機付け

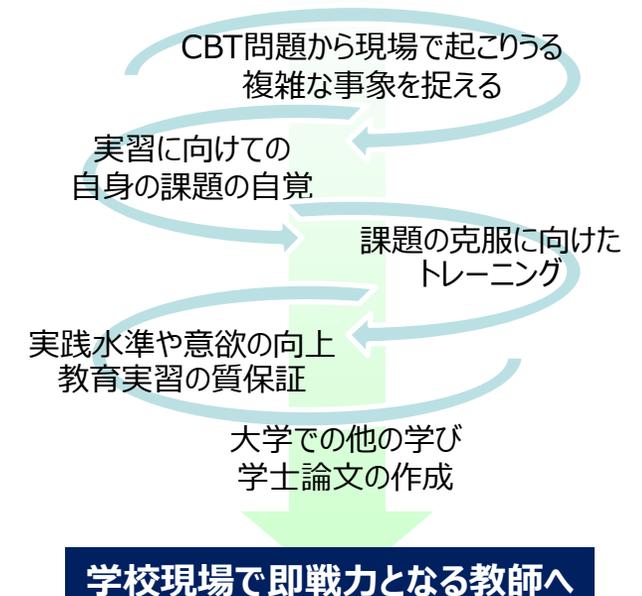
実習に必要な実践方法をイメージ

普遍的な実践理論の獲得に向けた意識化

教育実習前CBTに取り組むことにより、教育実習への心構えができたと思いますか。



令和3年度「教育実習前CBTアンケート」



**教育フィールド
研究の取組**

**教育実践力向上
CBTの活用**

新たな教師の学びの実現



国立大学法人

北海道教育大学

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION